

# 張鎮墓誌銘

太寧三年(325)  
(東晉時代)

## 歴代墓誌銘にみる 書法の変遷③

木  
鱗

木雞室

伊藤 滋

図版②

図版③ 原石写真



爨寶子碑



張鎮墓誌



上尊號碑

図版④ 張鎮墓誌銘



裏



表

張鎮墓誌は、一九七九年蘇州吳県用直鎮張陵山の地から出土した。高さ四五cmほどの小型の碑形式の墓誌である。地下に埋葬されていたために保存状態は大変よく、文字も刻された当時ままである。表も裏面も同じ様式で文字が刻されている。近年に発見された同時代の王興之墓誌（次号掲載）等と比較されるべきである。

張鎮墓誌は、一九七九年蘇州吳県用直鎮張陵山の地から出土した。高さ四五cmほどの小型の碑形式の墓誌である。地下に埋葬されていたために保存状態は大変よく、文字も刻された当時ままである。表も裏面も同じ様式で文字が刻されている。近年に発見された同時代の王興之墓誌（次号掲載）等と比較されるべきである。

張鎮墓誌は、一九七九年蘇州吳県用直鎮張陵山の地から出土した。高さ四五cmほどの小型の碑形式の墓誌である。地下に埋葬されていたために保存状態は大変よく、文字も刻された当時ままである。表も裏面も同じ様式で文字が刻されている。近年に発見された同時代の王興之墓誌（次号掲載）等と比較されるべきである。

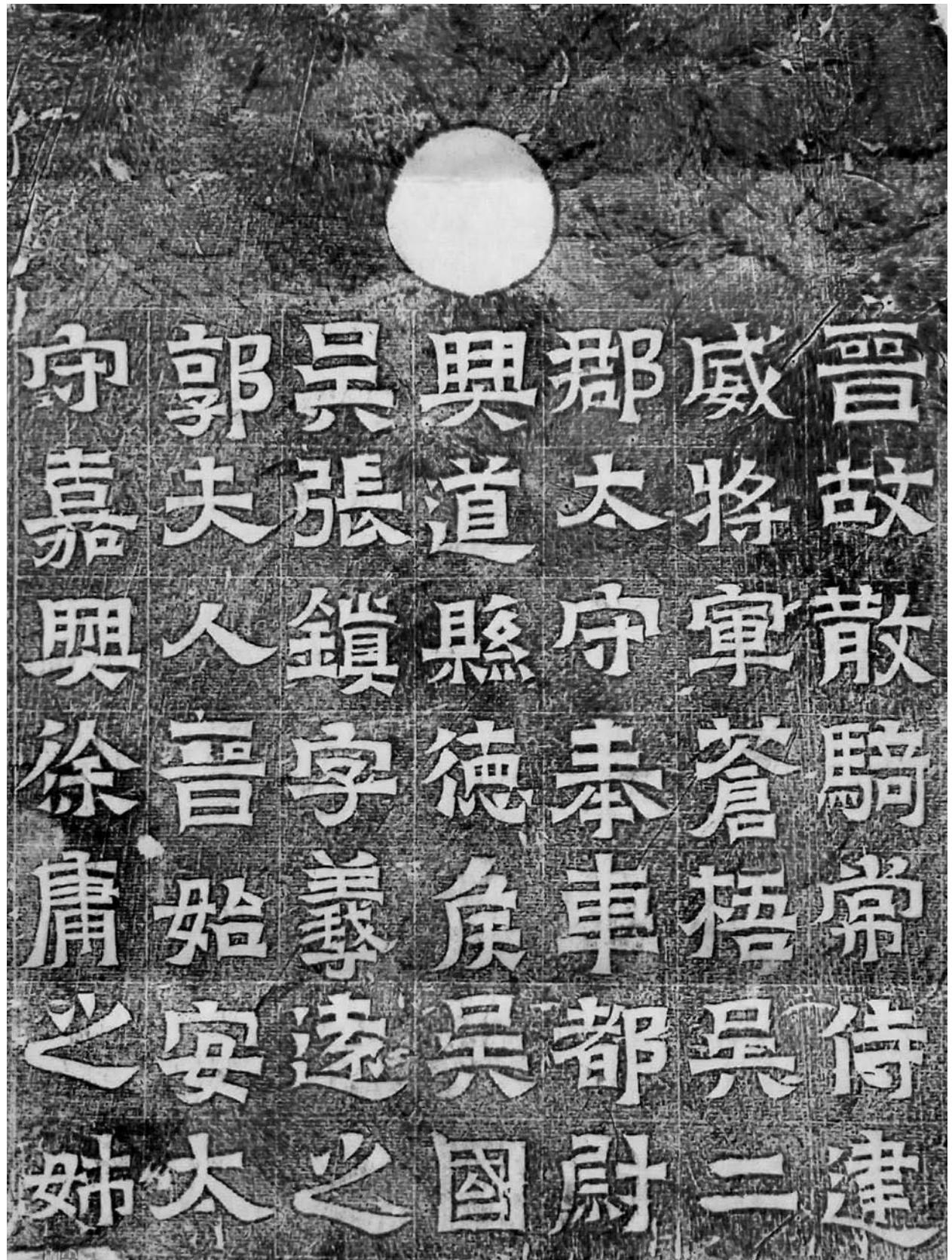
張鎮墓誌は、一九七九年蘇州吳県用直鎮張陵山の地から出土した。高さ四五cmほどの小型の碑形式の墓誌である。地下に埋葬されていたために保存状態は大変よく、文字も刻された当時ままである。表も裏面も同じ様式で文字が刻されている。近年に発見された同時代の王興之墓誌（次号掲載）等と比較されるべきである。

張鎮墓誌は、一九七九年蘇州吳県用直鎮張陵山の地から出土した。高さ四五cmほどの小型の碑形式の墓誌である。地下に埋葬されていたために保存状態は大変よく、文字も刻された当時ままである。表も裏面も同じ様式で文字が刻されている。近年に発見された同時代の王興之墓誌（次号掲載）等と比較されるべきである。

張鎮墓誌は、一九七九年蘇州吳県用直鎮張陵山の地から出土した。高さ四五cmほどの小型の碑形式の墓誌である。地下に埋葬されていたために保存状態は大変よく、文字も刻された当時ままである。表も裏面も同じ様式で文字が刻されている。近年に発見された同時代の王興之墓誌（次号掲載）等と比較されるべきである。

伊藤 滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp



# 書道芸術院

## 平成の群像 (2010)



牧 泰濤



### 「道を書き 続けたい」

「黒板に向かって15年、黒板を背にして40年、知識は教えたが、人生は教えられなかった」。稀代の哲学者、教育者の西田幾多郎の言葉である。時間だ

けは似たような自分だが馬齢を重ね、未だ魚目の身である。幼少時は父と相部良久先生に手解きを受け、大学に入學し、教員の資質の一とと考え筆を持った。安部遊雲、小坂奇石両先生には、直接間接に（学ぶ私はある時は熱く、ある時は冷め）亡くなれる迄ご薫陶を受けた。38年間の教員時代は書写教育に心血を注いだ。甲斐あって未だに後輩の優しい声援を得て、日々元気に生かされている。

予てより「書道とは道を書くことなり」と胸中に秘めてきた。これからも道を書く人でありたいと思っている。紙上に表現する墨跡の中に心象と人柄の渾然一体の墨跡と言葉を開陳し続けて生きたい。勿論、書を書く人体も身體も生活も書作品であらねばと思う此頃である。

来年は「妻の17回忌」。世間では「第二の人生」というが、私は人生は一本道。「万里一條鉄」であらねばと思つ

ている。筆を捨てないで今日迄生き続けてきた、いや続けてこられた幸せを噛み締めている。退職を機に本院に拾われ、恩地会長をはじめ心技体高潔な先輩後輩の中で田舎者の視野が広まつたことを有難く感謝している。自作語「心身如花」「老木不忘花」を以つて80才迄は道を書き続けたいと念じて折つていて。さて、言動不一致の作品即人には程遠い拙作ですが…ご批正を…。（エッ批正するに価しない）…。

「世の中は根気の前に頭を下げる」とを知っています。火花の前には一瞬の記憶しか与えてくれません。だから牛のよだれのようにもっと根気よくやりなさい」と。夏目漱石が弟子の芥川龍之介に言つた言葉である。漱石は不出の偉大な文学者、教育者、漢詩人俳人であり、そしてその書の品格は万人の認める書道人でもあった。と同時に高い人生観をも堅持していた文人でもあった。自戒としたい教えである。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 下谷洋子かな書展「沈潜と流れ」

本院常務理事、関東のかな作家の中堅として最近めきめき腕を上げてきた下谷洋子さんが、秋季展と同会期にて東京銀座画廊美術館で初個展を開催された。「沈潜と流れ」のサブタイトルに象徴されるように静謐な中に激しい情熱を燃やす意欲的な作品群であった。

正面の大作を中心に爽やかにして鍊度高く、明るく近代的なムードを漂わせた見事な展覧で、別室の漢字古典からの倣書作品の試みも意表を突いた新鮮な取り組みで興味を誘った。今後の活躍を期待したい。

## 浜谷芳仙本院名譽顧問 地域文化功労者表彰に輝く

芸術文化の振興や文化財保護に尽力した個人や団体を対象にした地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）を、本院名譽顧問の浜谷芳仙先生が芸術文化部門で受賞された。先生は世界的版画家、棟方志功や前衛書の先駆者、大澤雅休との出会いを機に前衛書の道に進み、本院や毎日書道展などの全国展で活躍している。毎日書道展北陸展の

実行委員長も3回務めたほか、数多くの要職を歴任。富山県内文化の振興に大きく貢献していることが評価された。11月9日文部科学省にて表彰式が行われた。（毎日新聞富山版より抜粋）

## 卯年干支切手 恩地会長揮毫



来年の干支切手が発行され（11月22日発売）、本院恩地春洋会長が久しぶりに揮毫された。特殊切手として発行される切手は多数あるが、なかでも干支切手は人気が高く、地方の郵便局ではすぐ売り切れになってしまって。お早目の購入をおすすめしたい。

### 今回の揮毫者

稻村雲洞 恩地春洋 片岡重和 小山やす子 中川祐聖 中野北渓 百瀬大輔

## 書の甲子園審査終まる。全国優勝 は大分県立中津北高校初の栄誉

本年正月からのNHK「とめはねつ／＼」映画「書道ガールズ」など高校生の書道パフォーマンスばかりで人気が更に増した「書の甲子園」第19回国際高校生選抜書展」は昨年より200点

余、団体数で100団体近くも増加した。

10月1～3日に大阪毎日新聞社内で行われた審査の結果、全国優勝は大分県立中津北高校が初の栄冠に輝いた。

準優勝は仙台育英高校、埼玉県立松山女子高校。個人文部科学大臣賞は千葉県の流通経済大学付属柏高校3年の大竹綾乃さんと大分県立中津北高校3年黒土沙織さんがそれぞれ受賞。外務大臣賞はメキシコからの留学生埼玉県立越谷北高校サンチャエス・パオラさんに決定した。

展覧会は来年2月1日～6日、大阪市立美術館にて開催される。

## 創立記念日講演会盛況に

恒例の本院創立記念日講演会が11月23日上野精養軒にて開催され、今回は俳人の片山由美子氏による「言葉と出会う 俳句と出会う」と題して行われた。満員の盛況の中、万葉仮名からひらがなののみの句、漢字ばかりの句などを引き合いに非常にわかりやすく、また具体的なお話で聴衆を魅了した。

先生監修の句集「色の一句」を会場にて販売、サイン会もサービスしていただいだ。講演に引き続いだ創立記念日懇親会にもご臨席いただき、有意義な記念日となつた。（次号詳細報告）

## 第10回現代の書 新春展出品者

新春恒例となつた「現代の書 新春展」は来年も銀座和光ホールと東京セントラル美術館で開催される。和光会場は毎日書道会理事・監事以上と本年文部科学大臣賞受賞者の計30名、セントラル会場は60歳以下の100名による選抜メンバー。本院関係出品者は以下の通り。

\* 和光会場 恩地春洋・辻元大雲  
\* セントラル会場 尾形澄神・工藤永翠・嵯峨大拙・下谷洋子・種谷萬城・千葉蒼玄・半田藤扇・前田龍雲  
\* 会期 23年1月5日～10日  
\* 席上揮毫などは別記

## 毎日新春チャリティーオークション

新春展に合わせて開催される。チャリティーなのでご協力を。

\* 会場 銀座松坂屋カトレアサロン  
\* 出品者 恩地春洋・辻元大雲以下62回展当番審査員など役員。  
\* 会期 1月6日～11日  
\* 会場 銀座松坂屋カトレアサロン  
\* 出品者 恩地春洋・辻元大雲以下62回展当番審査員など役員。  
\* 顧問・理事・名譽会員 1点10万円  
\* 総務・評議員・参事・参与会員 7万円、その他は5万円。

## 韓日書藝両人展開催

本院恩地春洋会長と韓国東洋書藝學会林炫折会長との二人展が韓国藝術殿堂・書藝博物館にて開催された。

会期 2010年11月22日～30日

25日には盛大な招待宴が開催され、日本からも玄遠社を中心多く参觀に訪れた。当日恩地会長の講演、小林琴水さんの大字揮毫なども行われた。詳細は後日報告予定。

## 漢字(三)

名越蒼竹

### 日本における近代化の限界

近代化とは西欧化のことである。明治以来日本では国を挙げてその努力をし続け、今やその影響は日本のどこで

もあらゆる場面において見ることができる。しかしそれでは東洋なるもの、日本らしきものが全て消され顧みられなくなつたかといえば、そうでもない。現在でも職場ではグローバリズムに合わせた組織や労働形態で仕事をしているが、家に戻れば和風に親しみ精神の休息やバランスをとろうとする。完璧な西欧化には染まりきれないので我々日本人である。

書の近代性を考える時、この日本人特性は無視できないのではないだろうか。

書の近代性を考える時、この日本人特性は無視できないのではないだろうか。書の近代性を考える時、この日本人特性は無視できないのではないだろうか。

## 21世紀の書

### —私の主張—

## 前衛書(三)

工藤永翠

としてあったものであり、その表現方法は多種多様だ。そして精魂を込めて書かれた書は、命が吹き込まれオーラを放つ。目に見えるものが全てではなく、見えない何かを感じた時に、心に響いてくるのだ。

今までに何度か海外へ行く機会があり、展覧会等で思う事柄がある。漢字圏ではない国の人ほとんどの人達は、書作品を読もうとはしない、読むという次元ではなく、そのまま視覚で受け入れ、感ずるのである。書に限らず、あらゆる芸術においても、制作する当人が心を燃やし表現したものは、瞬時に見る側に「感動」を与えるのではないか。

師から、「何を書くにも恋文(ラブレター)を書くようなつもりで書きなさい」と言われた事がある。確かに恋文には心が籠る。書は、いにしえの時代からそれぞれの思いを伝える手段

をそのまま展示することは難しい。新しい会場形式には「個性」を強調した主張性のある強い表現が求められるのもやむを得ない。そしてこれを極限まで押し進めれば文字性から遠ざかるのは自然の流れだと思われる。しかし「やむなくそ

なった」のではなく、「はじめからそれをねらって作る」のだとしたら、これから書は日本人になじめないものになっていくのではないかと感じられる。



桧板に書いた扁額作品



毎日書道展新会員展出品

工藤永翠書



藤井龍仙  
(広島)

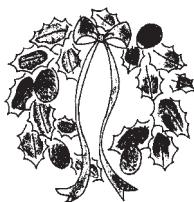
「門に馬車無く終年静に、  
身を雪山に臥して萬事輕し。」



菊田杏仙  
(宮城)

「肩越しに零戦の  
ごと鬼やんま」 自作

水辺や野山の散策が好きな  
ので、その折の句を書作しま  
した。芸院初出品から30年余  
り、武山櫻光先生初め、多く  
の先生方の御指導や、回りの  
方々の御助力でここまでやつ  
てこれました。今後も皆さん  
の御力添えを頂きながら邁進  
して行きますので宜しく御願  
い申し上げます。  
(杏仙)



## 平成21年度・22年度分の新審査会員作品 ご紹介は元となりました。

(ご協力ありがとうございました。)

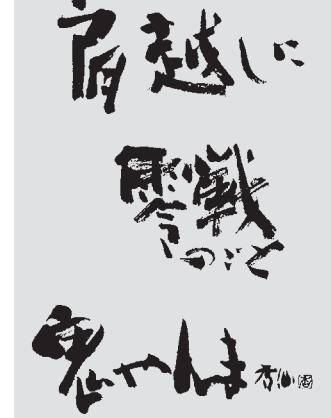


佐藤華炎  
(宮城)

「モルダバイト」



これは隕石の衝突によりガ  
ラスが変容してきた美しい  
透明な緑の石の名前です。身  
の回りのものにインスピレー  
ションを得て、自由に書を作  
していくらうと思いますが、日々  
勉強不足を感じています。線  
を鍛えながらも新しい書を作  
る実験を繰り返し、ひとつひ  
とつ誠実な書作を心がけたい  
と思っています。  
(華炎)



「肩越しに零戦の  
ごと鬼やんま」 自作

水辺や野山の散策が好きな  
ので、その折の句を書作しま  
した。芸院初出品から30年余  
り、武山櫻光先生初め、多く  
の先生方の御指導や、回りの  
方々の御助力でここまでやつ  
てこれました。今後も皆さん  
の御力添えを頂きながら邁進  
して行きますので宜しく御願  
い申し上げます。  
(杏仙)

左の法帖の中から何文字臨書してもよい。（掲載部分以外は不可）

### 特別研究部臨書課題

（全紙以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

#### 〈解説〉

蘭亭叙の真蹟は、最後に唐の太宗が手に入れ、掲書人（當時宮中にいた掲書の専門家）の趙模、馮承素など数人に命じて各数本複製させ、別にまた虞世南、歐陽詢、褚遂良、陸東之等に臨本を作らせたという。太宗は、真蹟を溺愛するあまり、ついにあの世まで持つて行こうと棺中に納めさせた一と伝えられている。

（編集部）

隨事遷感慨係之矣向之所

欣俛仰之間以為陳迹猶不

能不以之興懷况脩短隨化終

期於盡古人云死生亦大矣豈

不痛哉每覽昔人興感之由

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは

○○臨  
(押印のみも可)

隨事遷感慨係之矣向之所

欣俛仰之間以為陳迹猶不

能不以之興懷况脩短隨化終

期於盡古人云死生亦大矣豈

不痛哉每覽昔人興感之由

(91%縮小)

## 特別研究部臨書課題

（全紙以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判（料紙可）

（83%縮小）

（よみ）

われみてもひさし  
王見母悲志

くなりぬすみよし  
くよへぬらん

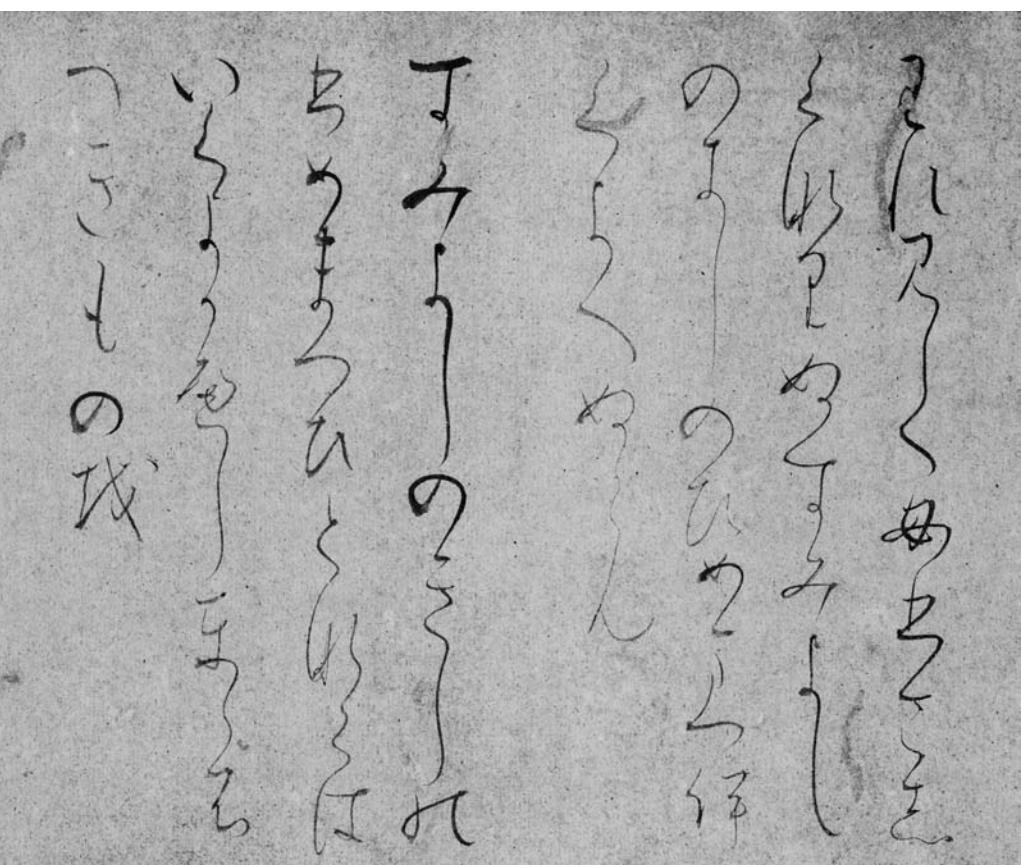
のきしのひめまつい  
のきしのひめまつい

解説

曼殊院本古今集の表紙は、明から舶來の万曆緞子の裂を付装し、その左上に短冊形題簽を貼り、それには「行成卿筆」と墨書する。見返しは茶地に金銀泥で草・流水・小鳥を描いた裝飾紙で、室町以後の作と目される。

曼殊院本は本来『古今和歌集』二十巻全て完存したと考えられるが、書写形式を見ると、詞書を省略しており、テキストとしては不備である。しかし、美麗な染紙を使用しているため、贈答用の調度品として制作されたことは確かである。そして、曼殊院本の冒頭に「古今和歌集卷第十七 雜七十首」とあるように、もとは七十首存したこと 등을伝えるが、今日では三十一首分を残すに過ぎない。

※規定どおり半紙はたてに使用のこと。



注 かな研究部競書作品は、上の古筆の掲載部分より  
歌一首以上を書く。  
（全臨も可）

※落款を必ず入れる。署名、  
もしくは○○臨  
(押印のみも可)

習い方解説 (三)

最首翠風

連山寒雲  
(れんざんかんうん)

隸書体を掲げました。隸書体は読み易いので看板やテレビの題字などに使われます。ただ古典を知らぬ俗書も多いのは嘆かわしいことと言えましょう。

隸書には波磔の無い古隸と波磔の付いた八分隸とがあります。素朴な古隸とともに張遷碑、曹全碑などの八分隸を一度は学ぶべきでしょう。参考手本は、やや現代風な表現にしました。副手本は行草体の四字構成をどう表現するかに心を配りました。

連山寒雲 よみ(れんざんかんうん)

書体=自由



習い方解説(三)

小林琴水

玉雪開花  
(玉雪花を開く)



丁寧にゆっくりと運筆、空間の  
とり方に気をつけましょう。余白  
のとり方でスッキリと明るさも出  
てスケールも大きくなります。余  
白が生きるよう字形を考えて書き  
ましょう。空間の美は大切です。  
それは楷書だけでは、ありません  
が、つめすぎたり、あけすぎたり  
して、字形のバランスがくずれな  
いように注意しましょう。

習い方解説(三)

石井明子

かぜさむ み木の葉晴れゆくよなよな  
にのこるくまなき庭の月影  
(式子内親王)

(式子内親王)

・変体がなについて

書の世界でいう、かなの分野は古筆を見てわかるように漢字とかなり成り立って今日に至っています。かなには、変体がな、平がな片かながあります。変体がなとは現行の平がな以外のかなを指していると言えます。

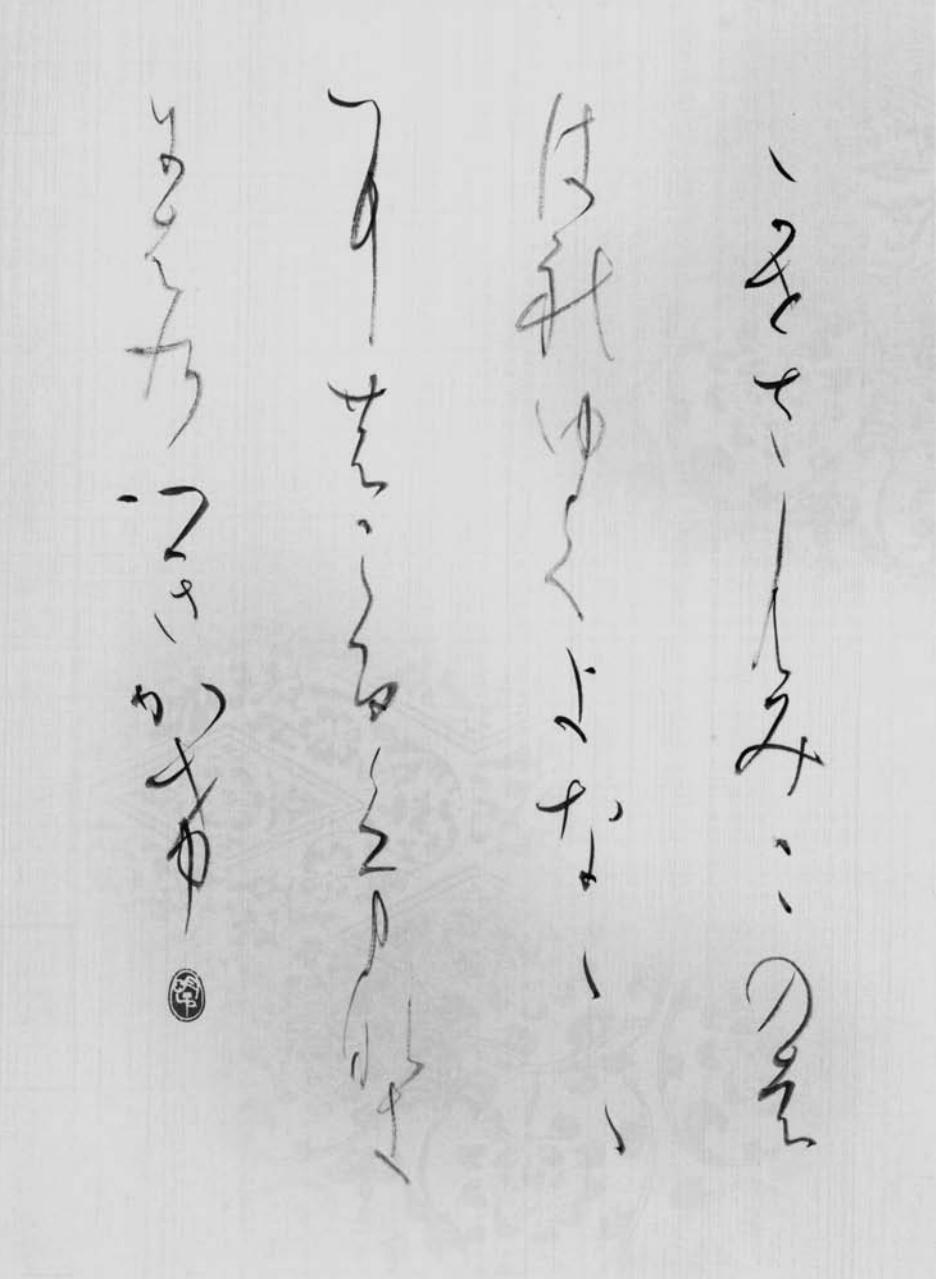
上は、和歌を三十一文字で書きました。漢字を使わず、変体がなと平がなの組み合せです。平がなだけの構成は単調に陥り、作品としての成立が困難です。そこで、変体がなの助けを得、連綿線も少し入れました。字母を確かめながら、変体がなの復習のつもりで制作して下さい。

歌意は、風が無いので、木々の葉が払われ、夜ごと夜ごとに月の光が庭の隅々まで照らしているよ。

よみ方 か(可)ぜ(世)さむ(天)みこのは(者)はれ(礼)ゆくよなよ(へ)な(へ)に(耳)

の(農)こるく(久)ま(万)な(那)き(支)に(尔)は(者)の(乃)つ(川)き(幾)かげ(希)

創作

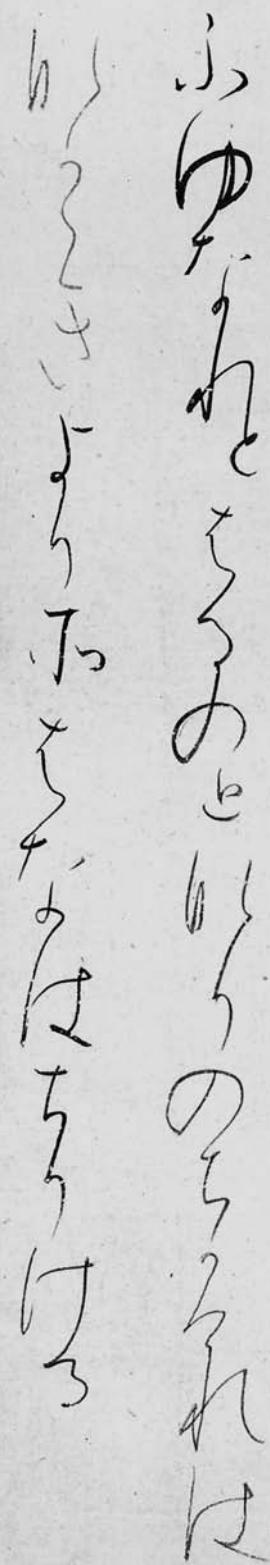


かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 ふゆなれどは(者)るのとな(那)りのちか(可)け(介)れば  
な(那)か(可)ゞきよりぞ(所)は(者)なはぢりける

### 習い方解説 (三)

和氣しげ代選書

寒月や我ひとり行橋の音  
(炭太祇)



かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

和氣しげ代選書

書き出しは、中央より右に寄せて、周りの広くゆったりとした余白部分を美しく見せるようにしました。二行目「橋」で墨継ぎし、一行目に添わせました。変体がなされました。二行目「橋」で墨継ぎし、を使わず、連綿は二字までにして、読みやすい作品に配慮しました。

創作

\*たて形式に限る

よみ方 寒月やわれひとりゆく橋の音

漢字条幅規定 初段以上【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

西林乘宣選書

### 習い方解説 (三)

西林乘宣

都司馬未去即日得足  
下書為慰先書具示

都司馬未去即日得足下書為慰先書具示  
(都司馬未だ去かざるに即日足下の書を得慰を為す先書具に示す)

書体=自由

王羲之の「十七帖」といえば書道人として知らぬ者なし。そして出だしの数行くらい空で言えるようにして下さい。使いの都司馬が羲之の手紙を預り立てようとしたその日に貴殿からの書信を頂きました。先の手紙に詳しく認めておいたのでここでは数字に留めます」といった内容。用筆としては智永の楷書に倣ってみました。

漢字条幅規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

### 習い方解説 (三)

辻元大雲



望月樓高太清  
(望月の樓高く太清し)

(壬酉齡)

書体=自由

今回は六字句です。一行書の場合七字以上はやや書き難いかも知れません。行書でやや大小をつけ、全体に動きを与えています。潤渴とのバランスで更に表現に変化が出るでしょう。

「樓」は「樓」の旧字体です。行草表現の場合、字書で色々な字形の変化を研究、工夫してみることをお勧めします。

習い方解説 (三)

牧 泰濤

やぶこじ科の常緑灌木で、高さ  
六七十センチ。夏、白い小さい五裂  
の花をつける。花の後、小さいまん  
丸い実をつける。

万両や禅寺の色  
ここに凝る  
美作句  
泰濤かく

「書を学ぶに端正なれば、則ち法度  
に審しむ」(黄庭堅『論書』)とある。  
書を学ぶときあまりに「きっちり」と  
整えようすると、規則にしばられて  
苦しむことになるということである。  
つまり「伸び伸び」と書した方がいい  
ということである。が最初から、自由  
気ままでいいということではない。  
「方整に始まり変化に終わる」という  
ように不斷の積習によってはじめて自  
在の域に到達するということだと思う。

〔ペン字考その二〕

- ①ペンは軽く持ち手先の運動(毛筆は  
腕の運動)が自由であること。
- ②ハネは軽くぬき、止めは軽く圧える。
- ③筆管は45度程、右手前に倒し持つ。
- ④毛筆の字形を想定して書くとよい。
- ⑤一点一画に注意することよりも二字、  
三字と語句を覚えて書くと、統一し  
た流れができる。

※落款を入れ忘れないようにしてください  
さい。(落款は自分の名前を入れて  
ください。)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品  
各部総評 No. 594

漢字部 師範 吉田 真理

漢碑の味ある古隸作品。渴筆もほどよく、現代性を感じられる。

古典を常に学んでいるようだ。  
◎漢字部総評 苦心して引いた線には味わいがある。配字、文字の大きさは下級上級とも考慮したい。

(翠風評)



漢字条幅部 師範 渋谷 愛華

漢代帛書の風を得て力強い三行構成で安定。運筆のリズムにより潤滑の変化もあり明快な作である。

◎漢字条幅部総評 上級参考例を元にした篆書表現は用筆未熟な作が多く、形を似せても基本的な技術不足が目立った。

(大雲評)

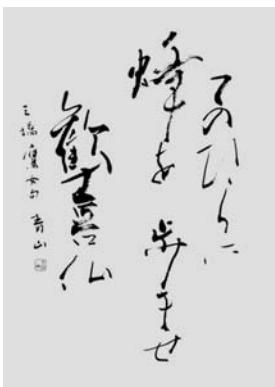


現代詩文書部 特選 熊谷 青山

沈んだ強い線が魅力的、行間、

空間の巧みな処理が絶妙で、心安らぐ作です。

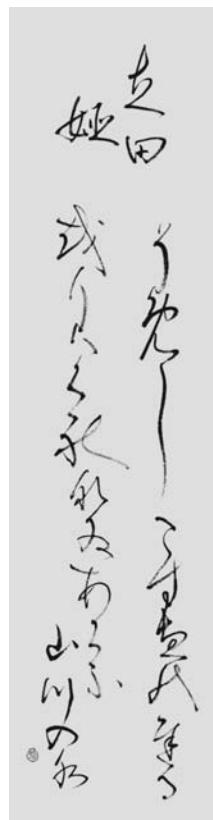
◎現代詩文書部総評 多様な作品でしたが、墨液での作品が多く見られます、一考を。(無極評)



かな条幅部 師範 鍋島 弘子

かな条幅に挑み、その苦労を感じさせない仕上りは見事です。

◎かな条幅部総評 上級者の創意工夫は感服。変体がな所の誤字多発は残念。旧かな遣いも併せて、注意を習慣にすること。(明子評)



秋も九月を過ぎると黄褐色もしくは紫褐色の花穂を出す。山は暮れ野は黄岱の芒かな蕪村の句を祥扁ち齋

前衛書部 特選 小野原紅華

太い細い線を使い重量感のある

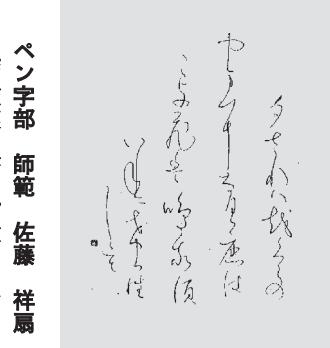
作品動きもよいこれから古典臨書の中から鋭い線を培つて下さい。

◎前衛書部総評 素晴しい見事な作品多くこれから前衛書の格調高めていただきたい。(如水評)



かな部 師範 吉野 彩祥  
気になる部分も多々あるが、変体かなを駆使して構成を考えた取り組みを評価! 最も目についた作。◎かな部総評 夕はゆふ変体かな。須・裳の誤字も多かった。くどいようですが、筆を再検討したい。細すぎた線は貧弱!(洋子評)

(洋子評)



ペン字部 師範 佐藤 祥扁

点画確実に書き、大きな動き迫力のある作品、書き手の主張を強く感じる作、更なる精進を。

◎ペン字部総評 ペン字でも筆と同様、太細、強弱の変化は大切です。心を込めて一枚にいかに集中出来るかがポイントです。(鄭街評)



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)



鈴木春江書

38×180cm

◆墨のにじみと掃くような線の融合は見る者に詩情を感じさせる。空間も大きくなり、白への響もある。

(蒼玄評)

◆淡墨2色の墨色が白の空間をより一層上品な風合いを醸し出し、あたたかい作品に造りあげている。

(藤扇評)

◆ほのかな情感を漂わせ、柔らかな広がりを感じさせる。作者の想いがしつとりと伝ってくる。

(大雲評)

◆優しい作品です。墨の色が伝える癒しと言ふべきか。余白を更に美しくしている飛沫が心憎い。

(明子評)

前衛書  
(山王)  
鈴木春江

「ほほえみ」

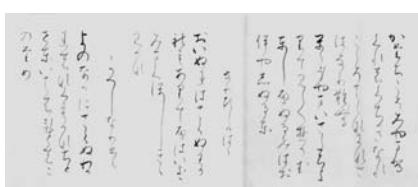
臨書 (A I)

藤村昌子

「曼殊院本古今集」



全体 53×160cm



〈部分〉 藤村昌子臨



池田沙静書

55×165cm

◆墨のにじみと掃くような線の融合は見る者に詩情を感じさせる。空間も大きくなり、白への響もある。

(蒼玄評)

◆淡墨2色の墨色が白の空間をより一層上品な風合いを醸し出し、あたたかい作品に造りあげている。

(藤扇評)

◆現代詩文とはこういうもの、という私の認識にすっぱり嵌つた。老練な筆致が上品で見応え十分です。(明子評)

◆中細字の文字を流麗な表現力と叙情的な感性で仕上げ心打たれる。細い線も紙面にくい込み見事です。(藤扇評)

現代詩文書  
(大雲)  
池田沙静

「パースの海岸にて」

◆曼殊院本の見どころである線質の繊細にして鋭利な筆線に魅了される。その上、料紙で書かれた為、さらに上品さを増した。

(藤扇評)

◆平素の真摯な学習態度が完成度の高い臨書となった。この学習がどんな独自性となるか楽しみです。(明子評)

(大雲評)

◆ほぼ元本と同色の料紙を用いての原寸臨書は、日頃の鍛錬を物語る安定感と字形の正確さを見せて妙。(大雲評)

(藤扇評)

◆上品に曼殊院を臨書して形臨に徹した作品。大字作も魅力あるが基礎的な臨書の重複をさせてくれた。(蒼玄評)

(大雲評)

現代詩文書

(安波)

## 鈴木英晴

### 「吉田一穂詩」



60×175cm

◆骨太の線で堂々とした作品である。最後の一行はまとめかねた感があるがこの方向で進んではほしい。

(蒼玄評)

◆大胆な運筆で、やや粗削りな筆致で雄大な動きある作。後半の渴筆のスベリが気になるが意欲作。

(大雲評)

◆大胆、迫力、筆力等に惹まれた完成度の高い作です。書かれた言葉との乖離を感じるのは私だけ?

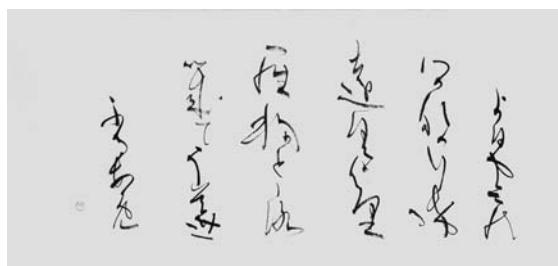
(明子評)

(藤扇評)

かな  
(書泉)

## 田村令子

### 「よひやみの」



53×113cm

◆横四尺余りに歯切れよく短歌一首を構成する。行間の余裕、行頭部のなだらかな構成など自然な作。

(大雲評)

◆揺ぎない構成を緊張感に満ちた線で抑制しながらの表現ができる精神力が魅力です。行間が絶妙です。

(明子評)

◆捺ぎのある線で歯切れよく短歌一首を構成する。行間の余裕、行頭部のなだらかな構成など自然な作。

(藤扇評)

◆切れ味のよい線質で自然な流れで書き込み、余白の美しさを醸し出している。心がなごむ作品である。

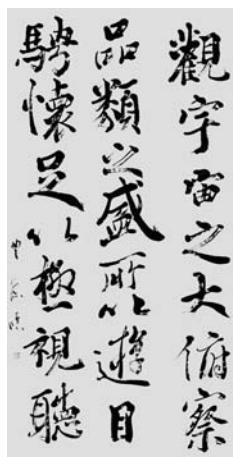
(藤扇評)

(蒼玄評)

臨書  
(四枝)

## 及川豊流

### 「張金界奴本・蘭亭叙」



137×70cm

◆濃墨のねばりを生かし、躍動感ある臨書。大きな広がりある運筆のリズムを買う。構成は今一步か。

(大雲評)

◆自分の臨書の認識の狭量を感じさせられた。広義に大きくとらえ、未完の部分を残しながら魅力的。

(明子評)

◆蘭亭叙を濃墨で表現、ねばりをうまく表現の筆使いで一字一字はしっかりといるが全體の構成は今一步。

(蒼玄評)

創作

82点

特選候補者

総出品点数

創作の部(52点)  
漢字—8点  
かな—8点  
現代—18点  
篆刻—1点  
前衛—17点  
臨書の部(30点)  
漢字—29点  
かな—1点

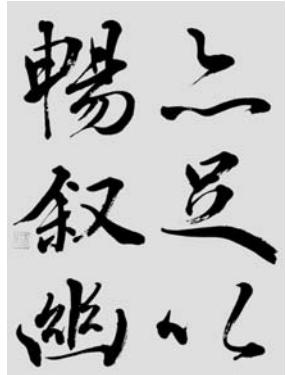
及川豊流 臨

漢字	墨宣	小林翠芳
漢字	もく	西川藤家
漢字	かな	
漢字	卯月	前田まさ美
漢字	書泉	田子白嶺
漢字	現代	
漢字	樹原庄司	咏艸
漢字	翠柳	加藤紫翠
漢字	前衛	
漢字	青蓮西塚	
漢字	月華	中塩遥
漢字	大雲	朱華
漢字	神谷	
漢字	千葉	
漢字	小林	
漢字	咲舟	
漢字	雲卿	
漢字	青山	

漢字研究部  
(蘭亭叙)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



鷺山美梢



春裕星蒼桃千  
美 鶴  
華子祥香華子

芳惠初翠美一  
翠子香徑楓水

梅翠彩淑靜桂  
光園華子子泉

惠谷青珪信山  
泉惠山翠溪房

漢字研究部 特選 鶯山 美梢  
原帖の特徴をよくとらえた秀作である。起筆の変化、收筆の慎重さ、筆圧の変化、筆脈の正確さ等、用筆・運筆の素晴らしいところがうかがえる。線の厚みが更に加わると申し分なし。

◎漢字研究部総評  
臨書は常に新鮮な気持ちで向かいたい。そうすれば必ず新しい発見がある。機械的に向かっ

た時には自分の一本調子の運筆、筆脈の途切れ、起筆の方向ズレなどに気づかない。単に字が上手か下手かではなく、原帖の細部までよく観察し、意識した上で臨書されているものには好感が持てたばかりでなく、そのような人は着実に実力が向上するだろうと思われた。特に今回の張金界奴本は変化が細やかで、なめらかな運筆が特徴であると知ってほしい。

選評 朝倉春江

今月のホープ作品



彩桜かつ  
峰江え

照知良  
芳子泉

紅谷柳  
霞恵芳

雅嵐佑  
雲泉子

遊艸千彩硯大椿  
雲玄葉 水翠  
秀  
上植今伊伊磯安  
木田閔藤藤井美  
啓如梨敏紫清代  
翠風霞子邦耀子  
高陵佳  
會木作  
勇介

も秀広東五 A 千 N 四竜英遊華や書道竜五百翠大卯京 A  
く水島小葉 I 葉 H 谷泉峰雲祥ま泉 泉松谷柳雲月橋 I 特選  
青森寺熊小都生湯伊北櫻吉西山齋岡松後橋本近穂新吉藤  
木田澤谷藤丸方本藤村田瀬澤崎藤井藤本郷池田谷田村  
みみ由  
啓藤悟紫さど美禮良秀龍彩影桜つ照知良紅谷柳雅嵐佑昌  
子谷子蘭あり子子佑子貞雨峰江え芳子泉霞恵芳雲泉子子  
こ蓮千鉢玄秀泉小艸千秀芳玉華佑有秀童秀竜千湘八東 N 英竜大大生玉こ高  
だ紅葉子翠水会汀玄葉水蘭葉祥希秋泉水泉葉南街小 H 峰泉阪雲大松だ真  
吉遊村深日花永中戸富刀速玉田武高砂鉢渋佐佐坂齊後後高北小大梅  
野佐田澤比里田瀬澤村澤根木山中山橋川木谷藤々久本藤藤武又川石山  
理志  
彩紅笑佳湖智時蒼雅博喜美希梢芳初雅洋利愛詠町節み早知喜玄春彩星久  
祥雅華月舟子子汀子舟子芳子葉翠枝江泉子子華子華よ苗子萩城峽香祥子

金遊千遊  
雲葉雲  
入  
阿安足赤部立星  
菜明万文華隆秀庵  
八昆千石正英紹稻宮京己 A 調赤湘千大詢調う生正幕生信竹東宮大華大詢伏竹秀高筑千渡土英久澄竜石正も華生正遊洞も呻  
雲陽葉か習華峰玄毛城橋未 I 布穂南葉雲窟布る大華張大囁窟峰崎阪祥阪局華扇明陵桜葉迎気峰賀春泉習華く祥大華雲書く玄  
七穴紫猿佐佐齊近菰小小小小河黒工木木君木北菊神河亀金加貝小小岡大大大大大白上岩岩今大伊板石池安新新  
條倉雲渡藤藤藤藤藤田林林鷗野柳藤村鳥原村池成岡井岡藤賀野熊村森野西襷沢井原測瀬村飼藤倉垣橋田藤井井  
裕和煌簾代麻桂絹美散松澄由雅白路惠竹香翠順春輝惠善行星。辰萩雅窓江代浜喜礼一幸淳綾岳祥貴道英佳青さ知尚楊藤靜  
美子月右子美香子子春惠子扇子葉蘭蕙子翠子舟高子扇動夫美芳萩眞子扇代子美江子乃峰苑園泉石子子鳳子子古風雪江  
高昌も竹樹高や佐竜紅右梵卯も千正澄山蓮京稻高土千や大正有高土遊蓮秀遊桂さ調泉湘大湘英有紅紅紅声正大生伏治生  
遷陵苑く美原陵ま倉泉苑田 月く葉華春王紅橋毛陵氣葉ま華秋陵氣雲紅歌雲景つ布会南阪南峰秋瑠瑠香華阪大華田大  
164 米吉吉横遊山山森茂村三丸松松増前本堀細藤平平比林浜丹西西成長長中中中中辻田玉田田高須鈴神神新清嵐島  
名氏名登百  
和翠藤蘭一明律 龍真萩白優藤翠律華代美魯貴寿優彩美代惠ズ登加千シ美  
子綾玉舟米子子毅博蘭堂楊子倅景子秀子雪春子三子華和子子エ子美香蓮水仙泉作惠子子翠惠子子舟広楓子碧郎子子

◎かな研究部総評  
正確で流麗、しっかりとした臨書が数多くあった。線はのびやかで  
の太細の明確な古筆なので、転折の当たりを強くし  
たり、運速の変化や抑揚などにひと工夫が必要です。  
字形は小さいが豊円でおおらか。線はのびやかで  
気品も高く、特に細い線の中に、りんとした響きの  
ある美しさは、魅力的で秀逸です。

藤村昌子

かな研究部 特選 藤村 昌子